こう変わる 授業・教科書
～新課程を迎えて～

1. 中学校はどう変わった？
4月より中学校の新指導要領が施行されています。外国語は単位数が3単位から4単位になりました。では中学校の教科書はどのように変わっていているのでしょうか。6社から発行されているので、出版社によって対応は少しずつ異なりますが、まとめると以下のような変化が見られます。
① 小学校の外国語活動との接続
1年生の冒頭に、小学校の外国語活動に復習するwarm-upのページが割かれています。
② ページの増加
前課程と比較して、ページ数は約1割から3割増になっています。本課のレッスン数は変わらないものが多いですが、Readingの題材が増えたり、巻末の付録（文法のまとめや語彙を補うpicture dictionary）のようなものが充実したりしています。
③ 文章量の増大
本文が長くなっているもの、間に読解題材が挟まる企画のものがあります。
④ 多様な活動・表現
言語活動は、4技能をまんべんなく使うように補強され、それらの活動を行うための表現・語彙が現行より豊富に掲示されています。

2. 高等学校はどう変わる?
ここでは、高等学校の指導要領の詳細は省略し、どういった点に注目すべきかに触れたいと思います。
まず、平成25年度の高校1年生は、新指導要領下では1年しか学習していないことに注意が必要です。中学の3年間を通して新指導要領の教科書で学んで高校生となるのは平成27年度生からです。
また、中学校の教科書は、選択選択できる構成要素が増えたので、例えば、「話す」「聞く」に重点を置いて学習した生徒と「読む」に重点を置いて学習した生徒では、高校に進んできたときに習得してい
る内容に差がある可能性があります。
さらに、中学校における読解量・語彙量増や、英語での言語活動を行うことにより、高等学校では実質的に学習内容が増えます。しかしながら、外国語の単位数は同程度と想定されますので、密度の深い学習が必要になると思われます。

3. 数研出版はどう変わる?
このような新指導要領の変化を鑑みて、小社ではPOLESTAR, BIG DIPPER, COMETの3シリーズの教科書を発行いたします。
上記で触れました「繰り返し学習」「英語での活動」「スムーズな授業展開」などの必要性を考慮し、先生方にお使いいただきやすく、学習者の方々の理解を深める企画・構成を検討し、それぞれの特色を打ち出した3シリーズです。
POLESTARシリーズ
コミュニケーション英語・英語表現ともに、格調高く、authenticな内容をそろえ、英語での活動のための素材を十分に用意しています。入試への備えも万全です。
BIG DIPPERシリーズ
コミュニケーション英語・英語表現ともに、中学の再習～高校英語の基礎を茨着させる構成です。その課の中での繰り返し学習で英語での活動ができる構成です。
COMETシリーズ
本文を用いた繰り返し学習の中で、中学の再習を中心に、基礎的な英語力を茨着させる新シリーズです。
いずれのシリーズも、デジタル教科書（→p.12）、Teacher's Bookなど、多様な活動を実現するさまざまな周辺教材をそろえております。何卒ご高配のほどよろしくお願い申し上げます。

（数研出版 英語編集部）